



(上) 畑の脇で、発酵段階ごとに区画しながら、肥料づくりをしている。

(左) 完成した肥料を掘り起こすと、カブトムシの幼虫がゴロゴロ出てくる。この幼虫の糞も、土づくりには欠かせない栄養素。



profile ゆい とらこ (日本豊受自然農株式会社)

ホメオパシーをイギリスで学び、帰国後は日本でその普及活動に邁進。その後、1反5畝から農の世界へ。2011年には〈農業法人日本豊受自然農株式会社〉を設立し、静岡県の函南、北海道の洞爺に合計50反の畑と田んぼを持ち、大規模農業への道を歩んでいる。 www.toyouke.com

の土地を借りて、家庭菜園を始めました。そうしたら当時私が代表を務めていたホメオパシージャパンやホメオパシックス・エデュケーショナルの社員が手伝いに来てくれるようになったんです。育てていた野菜も好評で、農地を広げていくうちに、4年前、函南町役場の紹介でこの場所と出会ったんです。もう、ひと目惚れでした」

豊受自然農のある農地の周り一帯は別荘地。由井さんは農地転用で別荘がつくられてしまふことを危惧し、すぐに土地を購入。さらにホメオパシー関連の会社経営からは退き、農

業法人へ日本豊受自然農株式会社を立ち上げて、25反の畑と田んぼで本格的な農業に取り組んでいく。

農業法人という可能性。

「農業の仕組みをなんとかしなくてはという使命感を持っていましたので、農業法人でやろうと。個人のままでは私が死んでしまえば終わりですが、会社にすれば、ずっと続いていくと思ったんです。その後、東日本大震災の被災地

に行つて必要とされたのがレメディイ(ホメオパシーに使う砂糖玉)以上に安心・安全な野菜や水だったことも、大型農業をしなければという気持ちを新たにさせてくれました」

農業法人を立ち上げるにあたり、由井さんはホメオパシーの会社の社員から数名を引き抜いた。農業の仕組みを変える。その実現のためには、同じ志を持つ人の力が必要だったのだろう。とはいえ、スタッフは農業経験のない人たちばかりだ。

「予期せず土に触れる仕事をするようになった